

報道関係各位

2026 年 9 月 11 日

Hmcomm株式会社
(東証グロース 265A)

ドライブバイ方式による漏水監視の取り組みが日刊建設工業新聞に掲載

AI 異常検知ソリューション「FAST-D」によるインフラメンテナンス DX に取り組む Hmcomm 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：三本 幸司、以下、Hmcomm）は、開発を進める漏水監視システムにおける「ドライブバイ方式」の取り組みが、建設業界専門紙である「日刊建設工業新聞（2026 年 9 月 11 日付）」に掲載されたことをお知らせいたします。



ドライブバイ方式の概念図（報道発表資料から）

漏水判定データ

車両通過時に収集

Hmcomm 運送大手と実証へ

Hmcomm（エイチエムコム、東京都港区、三本 幸司代社長兼最高経営責任者（CEO））は、音と AI ホール内の端末から近距離無線通信で漏水判定データを収集する。複数の大手運送会社と実証実験や運用方法を協議中。水道施設を管理する市町村の人員や予算が限られる中、広域にわたる管路網を効率良く予防保全する。

AI 異常検知ソリューション「FAST-D」として開発中の漏水監視システムが基盤技術になる。水道管や地理空間データなどを活用して広域をカバーする漏水リスク分析と、独自開発の音響解析 AI による漏水音判定を組み合わせて運用。

無線通信で漏水判定データを収集する。複数の大手運送会社と実証実験や運用方法を協議中。水道施設を管理する市町村の人員や予算が限られる中、広域にわたる管路網を効率良く予防保全する。

AI 異常検知ソリューション「FAST-D」として開発中の漏水監視システムが基盤技術になる。水道管や地理空間データなどを活用して広域をカバーする漏水リスク分析と、独自開発の音響解析 AI による漏水音判定を組み合わせて運用。

業者に対価を還元するなど、インフラ管理者と双方にメリットがあるエコシステムの構築も考える。一方、全ての監視地点を新手法でなく、監視対象や通信環境に応じた最適なデータ収集方法を柔軟に選択する。

これまで守山市で展開してきた基盤技術の実証では、広域にわたる水道管の基本情報や修繕履歴などのデータを使い、漏水リスクの高い地点を AI で絞り込んでから、現地で収集した音響データを解析してきた。過去のデータに対する高リスク地点の分類精度は約 81%、現地計測データによる漏水・非漏水の分類精度は約 92% となり、予防保全型漏水監視の有効性を確認している。

今回掲載された記事では、日常的に走行する物流車両を活用し、車両通過時にマンホール内に設置した端末から近距離無線通信によって漏水判定に必要なデータを収集する「ドライブバイ方式」について紹介されています。

Hmcomm では、AI 異常検知ソリューション「FAST-D」を基盤に、水道管や地理空間データ等を活用した漏水リスク分析と、独自の音響解析 AI による漏水音判定を組み合わせた漏水監視システムの開発を進めています。

また、滋賀県守山市での実証を通じて、物流車両を活用したデータ収集方法の検証を進めるとともに、複数の大手運送会社と実証実験および運用方法について協議を進めています。

当社は今後も自治体や物流事業者、関連機関と連携し、AI 技術と既存の物流網を活用した効率的なインフラ監視の実現に向けて取り組み、持続可能な社会インフラの実現に貢献してまいります。

■ H m c o m m株式会社について

代表取締役社長 CEO 三本 幸司

URL <https://hmcom.co.jp>

設立日 2012 年 7 月

所在地 東京都港区浜松町 2-10-6 PMO 浜松町III4 階

事業内容 人工知能（AI）音声処理技術を基盤とした要素技術の研究/開発およびソリューション/サービスの提供

<本リリースに関するお問合せ>

報道関係者様：H m c o m m株式会社 IR 担当 hm_ir@hmcom.co.jp

企業様：H m c o m m株式会社 営業統括部 sales_team@hmcom.co.jp

TEL：03-6550-9830 FAX：03-6550-9831

